

立命館 災害支援室 版 かわらばん

【第29号】2016年1月29日発行

【活動レポート 8月-12月】

●ボランティアバス企画 【第32便】後方支援スタッフ派遣 ～ふくしま第1便 榎葉町ゆき～

学生15名が参加。「避難指示解除準備区域」に指定されていた福島県榎葉町で、9月5日に避難指示を解除される町民に向き合う活動を行いました。2015年8月5日(水)、放射線や今回の活動を学ぶ事前研修を開催。8月31日(月)～9月6日(日)に現地に赴き、町民の帰町に向けて一般社団法人ならはみらいと共に、榎葉町民の「これまで」と「これから」の思いを「榎葉町のきおく」として写真と言葉により記録に残す活動を行いました。また、作成した作品を9月5日に開催された「復興記念式典」で展示をしたり、5日0時(4日24時)に開催されたキャンドルナイトの運営のお手伝いをしました。

<参加した学生の感想>

「原発の影響はまだ残っていて深刻な問題な分、復興が遅れているような印象を受けました」「実際は辛い経験をしていますが、強く明るく生きている方が多く、私が元気を貰いました」「正解なんて誰にも分からない。避難指示解除を機に榎葉に戻るといっても、戻らず新たな場所で生活し続ける方もいて、それぞれが正解で、それぞれが前を見ていました」

▼活動の様子



●ボランティアバス企画 【第33便】後方支援スタッフ派遣 「産直やませの丘」の建設活動

学生8名が参加。2015年9月12日(土)～20日(日)に宮古市田老にある「たろう道の駅」の移転先に新設される産直販売所「産直やませの丘」の建物(ODENSE3)の建設を、宗本先生のもとで勉強している研究生、さくらサイエンスプログラムで建築の勉強に来ているラオス大学とインドネシア・イスラム大学の学生と共に行いました。

1日目は視察を通し、震災当時の様子や被害状況、津波が多い地域での教訓について学びました。2日目からは、研究生に指導を受けながら建設活動を行いました。最終日は、チリで地震が発生したことで津波注意報が発令、津波に対しての現地の動きと津波の怖さを体験しました。最終日は、感謝状贈呈式が開催され、宮古市長から大学と学生に感謝状をいただきました。夜には道の駅の方にパーティーを開催いただき、現地の方々と交流をしました。

<参加した学生の感想>

「思った以上に復興が進んでいてびっくりしました。ただ作業中に津波警報が出るなど、津波の怖さを思い知りました」「現地は何もかもが流され更地ばかりで、ここに家が沢山建っていたとは想像もつかなかった。仮設住宅の多さから被害の大きさを感じた」

▼活動の様子



●福島県と立命館共催イベント 『ふくしまの今を語ろう』開催

2015年12月20日(日)、立命館大学いばらきキャンパスにて、「風評と風化」二つの風に向き合い、現地の今を知り、感じ、考える1日として『ふくしまの今を語ろう』を開催しました。

当日は、述べ180名の方に参加いただき、映画「物置のピアノ」の上映、映画プロデューサー橋内裕人さんと映画トーク、「福島プロジェクト調査」活動を毎月行っておられる立命館大学名誉教授安齋育郎先生、風評・風化政策推進を勤める福島県風評・風化対策監野地誠さん、大学を1年間休学して福島県榎葉町で活動している西崎芽衣さん、震災支援活動を行う学生から活動報告と橋内さんも交えて会場とのトークセッション、福島県産の白ご飯や榎葉町郷土料理「マミーすいとん」の試食コーナー、起き上がり小法師絵付け体験、福島県や支援活動を行う学生と災害復興支援室の展示、福島県のゆるキャラ「キビタン」と遊ぶ企画、福島にかかわる本の植本セレモニー、福島の語り部さんによる紙芝居を行いました。

<来場者の感想>

「表面だけしか理解していないことがよく分かった。不安なことを理解できた様に思う」「現在の色々な問題点が明確になり、考え方に関するヒントが得られた」「郷土料理美味しかった」「福島県に行きたいと思った」

▼会場の様子



●平成27年度大学間連携災害ボランティアシンポジウム

「震災から5年目へーいままで、いま、そしてこれから」

市民フォーラムのコーディネーター、後方支援32便参加学生が活動報告

2015年12月12日(土)～13日(日)に開催されたシンポジウムに、災害復興支援室副室長の山口洋典(共通教育推進機構准教授)が市民フォーラムのコーディネーターを務めました。また、後方支援スタッフ派遣プロジェクト第32便に参加した学生3名が、活動報告を行いました。当日は、全国の大学から災害復興支援活動に取り組む学生、教員、職員が集い、講演やポスターセッション、分科会、市民フォーラム、情報交換会を通して、他大学の情報と意見交換を行い、誰もが積極的に参加する内容の濃いシンポジウムでした。

▼会場の様子



●京都文教大学主催

「東日本大震災復興支援学生シンポジウム～復興とその先、関西からできること～」

後方支援32便参加学生が活動報告

2015年12月19日(土)、京都文教大学災害復興支援シンポジウム実行委員会が主催のシンポジウムに後方支援スタッフ派遣プロジェクト第32便に参加した学生5名が、活動報告をしました。

このイベントは、各大学で災害復興に取り組む学生が交流することで、他大学での取り組みを知ると同時に自らの取り組みを見つめ直し、今後の活動について考える機会とすることを目的に開催されました。当日は、京都文教大学、神戸学院大学、龍谷大学、佛教大学、立命館大学の学生と職員約30名が参加し、それぞれの学校からの活動報告と

グループディスカッションが行われました。立命館からは、福島県楡葉町で取り組んだ活動報告と、町民の声を届けました。そして、活動を通して課題や今後の活動について発表しました。

▼会場の様子



●立命館土曜講座12月講座「東日本大震災5年と復興・支援～距離を越えてつながりあうこと～」を開講

2015年12月5・12・19日(土)に、「東日本大震災5年と復興・支援」を開講し、延べ270名程の方にお越しいただきました。

<来場者のコメント>

「あれほど堪大な被害を出したにもかかわらず、原発再稼動が進められようとしている今、福島の課題を考えるにあたって柔軟な視点を持たせていただき、ありがとうございます。」「一般のマスコミでは触れない面を教えてください、ありがとうございました。」「東日本大震災の被災地支援に対する本学の熱意とその活動を伺い、支援のあり方について目から鱗が落ちる思いだ。遠隔地であるにもかかわらず、現地へ赴き要望にこたえる対応は力強い支援となっているに違いない。」

■ネパール大震災復興支援教職員募金寄付先「プロジェクト大分・ネパール」から中間報告

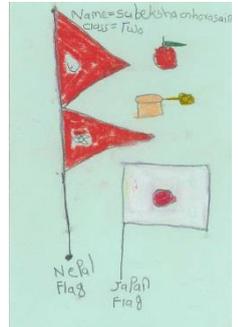
2015年7月15日～31日に、教職員のみなさまにご協力いただきました募金の寄付先「プロジェクト大分・ネパール」から活動の報告が届きました。

<団体からの報告>

5月20日から活動を開始し、約7ヶ月間様々な活動を行い、4,007,205円の寄付を集めました。8月にネパールへ

足を運び、学校建築活動が始まりました。帰国後の9月中旬頃からネパールはインドによる非公式の経済封鎖に直面し、100%輸入に頼っていたガス・ガソリンが輸入できず、資材を運搬するトラックが動かせず、活動を一時中断しています。学校開校は2月を予定していましたが、2月には再度ネパールに行き活動再開、現地子どもたちとの交流を予定しています。目標600万円を達成するために、これからもがんばります。

▼現地子どもたちから寄付者宛てに描いた絵と写真



【今後の主な取組み予定など】

◆災害復興支援室のホームページをリニューアル!

各情報をよりわかりやすくお伝えできるように、2月下旬にホームページをリニューアルします。URLの変更がありますので、「お気に入り」「ブックマーク」の登録変更をお願いします。

◆3月「3.11いのちのつどい」開催

今年も東日本大震災から6年目を迎える3月11日(金)に開催。東北のこと、立命館が取り組む復興支援活動について様々な形でお伝えし、これからの考える機会になればと思います。詳細が決まりましたら、ホームページ等で案内致します。

◆福島県主催「FUKUSHIMA STUDY TOUR」留学生5名派遣

3月9日～14日、イギリスUniversity College Londonの学生たちと一緒に、福島県の復興の状況を視察し学生間の相互交流を通して、復興支援への理解を深めます。

●立命館守山中学校・高等学校の生徒による取り組み

生徒14名が、12月23日(水)は宮城県石巻市の仮設住宅、24日(木)福島県楡葉町を訪問し、現地の方々と交流をしました。クリスマス会を開催し、現地の方に町内を案内していただき生徒たちが気づいた楡葉町の良いところを発表しました。

<参加者のコメント>

「今私が一番伝えたいことは『行って、見て、聞いて、体験しなければ何もわからない』という事です。『すべてを失った自分に仮設住宅は本当にありがたい』と話してくれる人の表情や、放射能被害を受けた街に人の笑顔が戻るよう必死に努力し、働く現地の人の熱意。これらは、実際に訪れたからこそ気付けたことだと思います。現地の人の前向きな心に背中を押され、自分の夢のために努力しようと強く思いました。」「出会った人は皆、震災というものを経験して不安に思っているながらも、笑顔で楽しそうに教えてくださり、前を向いて歩いているように感じ、自分自身が元気になりました。ぜひもう一度東北を訪れたいです。」



編集後記

春休休暇を利用して東北の支援活動を行う学生の旅費支援を行っています。次号でご報告します。(か)

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しました。<公式web <http://www.ritsumeai.ac.jp/rs/20110311/>>